

スピーダ

経済情報リサーチ

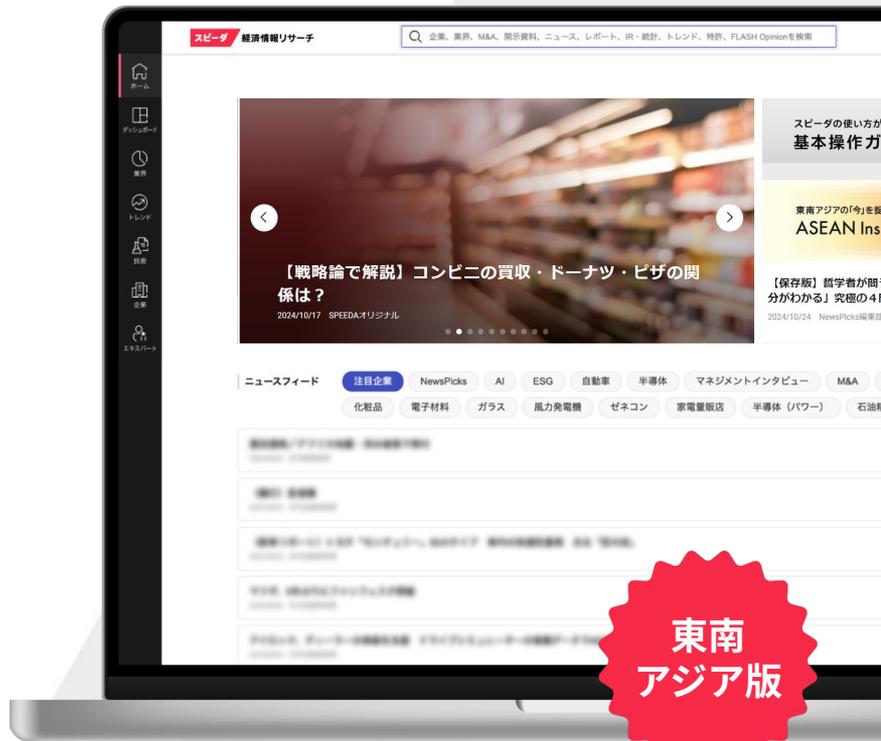
7日間かかる情報収集が、 たった1時間に

市場リサーチや資料作成が
あっという間に終わる

その領域の専門家に
すぐに質問ができる

競合他社の財務分析が
10分で終わる

あらゆる事業領域で
競合企業を特定できる



東南
アジア版

スピーダ東南アジア版の強み

スピーダはアジアの情報を強みとする経済情報プラットフォーム

ユーザーは、ウェブベースの経済情報プラットフォームにはいつでもアクセスできるとともに、よりニッチな情報収集やレポート加工を当社のコンサルタントチームに依頼いただけます。

ウェブベースの 経済情報プラットフォーム



業界・企業・統計・投資に関する情報のワンストップポータル
ウェブベースで時・場所を問わずアクセス可能
カスタマーサポートチームが迅速なデータ取得をサポート



カスタムリサーチサービス

※リサーチのアウトソーシング

(海外でスピーダをご契約いただく法人様のみにご提供)



1. デスクトップリサーチ：業界レポートを執筆するアナリストと事業情報に強いコンサルタントによる公開情報中心のリサーチ
2. 外部の業界専門家とのオンライン一問一答、および1時間の面談サービス *オプションサービス

スピーダはアジアの情報を強みとする経済情報プラットフォーム

プラットフォームは、東南アジア各国の業界動向、新しい事業機会のトレンド、現地企業の事業概要・財務情報、現地の経済ニュースや投資関連ニュースを幅広くカバーしています。

スピーダ リサーチプラットフォーム



業界分析・企業情報収集の
オンラインプラットフォーム

マクロの視点からミクロまでカバー

- ・各国の政治・経済動向のアップデート
- ・地政学的潮流のアジアの事業環境への影響
- ・新しい事業機会の分析
- ・各業界の業界構造、成長性、競争環境
- ・大企業～中小企業の財務動向
- ・M & A、資金調達、その他経済ニュース



アジア最大級のオンライン経済情報プラットフォーム

スピーダは、企業・業界分析に必要となるあらゆる情報が網羅的かつ体系的に整理された世界最大級の「経済情報プラットフォーム」です。データの収集・分析から資料作成までをワンストップで実現します。

外部コンテンツ

アジア各国の政府機関
企業信用調査会社

THE WALL STREET JOURNAL

THE STRAITS TIMES

Bangkok Post

Saigon Times

The Jakarta Post

crunchbase

EUROMONITOR INTERNATIONAL

NEWS PICKS

DOW JONES

PRTIMES

国際機関・各国政府
統計部門

スピーダ

アジア各国含む
上場・非上場企業データ

約**1,200**万社

業界
トレンドレポート

3,000本以上

アジア各国
経済ニュース

2,000媒体以上

国内外エキスパート 50万人

M&A情報 260万件

最新トレンド記事

各種統計情報

特許動向

自社コンテンツ



ビジネスアナリスト



エキスパート

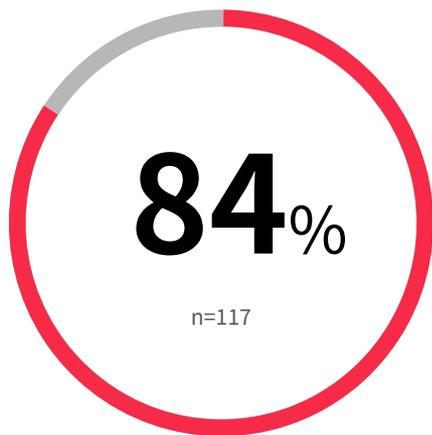


カスタマーサクセス

「信頼できる情報」と「多面的な検証」により「戦略策定の精度向上」を実現

スピーダ 経済情報リサーチ導入/利用で

戦略精度が向上 (※)



スピーダ
導入前

一方向からの視点



意思決定

スピーダ
導入後

多方向からの視点



意思決定

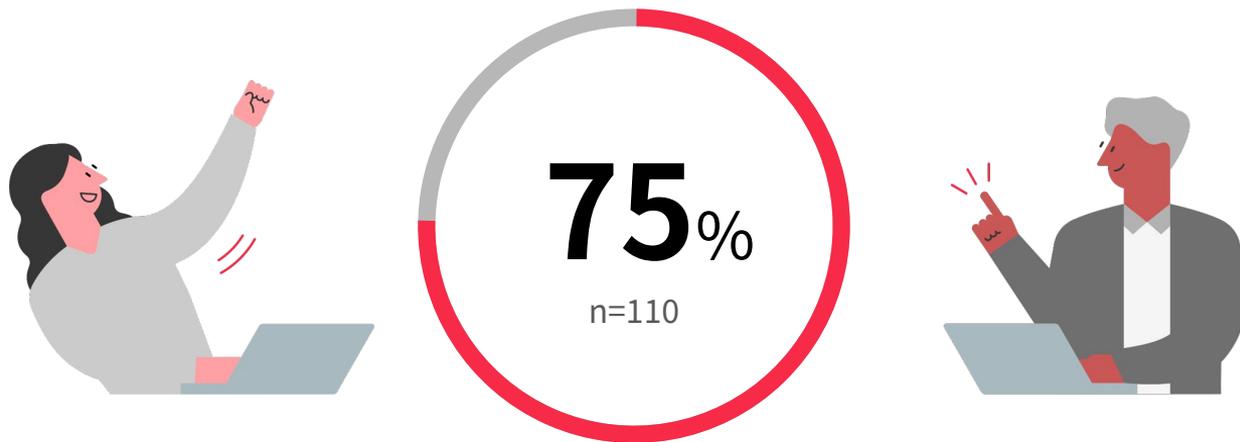
Q. SPEEDAを導入/利用したことで、成長戦略の精度向上に貢献できたと感じますか？

※出所：2023年 Uzabase 「SPEEDAのご利用に関するアンケート」より抜粋・要約

「調査分析の時間を削減し、戦略精度を高め」中長期的な結果につなげます

スピーダ導入/利用で

継続的な収益・利益の拡大に貢献^(※)



Q. SPEEDAを導入/利用したことで、継続的な収益・利益の拡大に貢献したと感じますか？

※出所：2023年 Uzabase 「SPEEDAのご利用に関するアンケート」より抜粋・要約

Speeds
User's Voice

LH BANK

Land and Houses Bank Public Company Limited

Thanapol Srithanpong, Ph.D.
Senior Vice President
Business Research Division
Corporate Strategy and Innovation



大手商業銀行のビジネスリサーチ部門 における業界リサーチの活用例

Land and Houses Bank (LH Bank)
Senior Vice President of Business Research
Corporate Strategy and Innovation
Mr. Thanapol Srithanpong, Ph.D

タイの金融業界において重要なポジションを占めるLH Bankは、変化する顧客のニーズに革新的なソリューションを次々と提供し、信頼されるアドバイザーとしての地位を築いてきました。

企業戦略・イノベーション部門に属するビジネスリサーチチームでは、産業動向の調査に特化し、市場の動きを把握するために複数のデータプロバイダーを活用しています。その中で感じたスピーダの強みとは？

ー スピーダは調査の中でどのような役割を果たしていますか？
私たちのチームでは、精度の高い分析結果を継続的に提供するため、「一次情報（政府機関などから発信される生の情報）」とBloomberg, Sustainalytics, FactSetなどのグローバルなデータプロバイダーや、Corpus Xといったローカルのデータサービスから得られる「二次情報」を活用しています。

スピーダは、日々のリサーチ業務で頻繁に活用しているツールのひとつです。最新の業界情報を収集できることに加え、新興分野から既存産業まで、国内外を問わず幅広くカバーしている点が大きな魅力です。地域レベルの業界分析を行う際、スピーダは常に候補に挙がる主要なデータソリューションのひとつです。

ー レポートの良い点があれば教えてください。

スピーダのレポートは、信頼できる情報源であることはもちろん、業種別・国別に細かく分類・整理されているためわかりやすく、特定の業種・地域に関する必要な情報を迅速に見つけることができます。たとえば、タイ・ベトナム・中国といった特定の地域における自動車業界を調べたいときも、スピーダを使えば、数クリックで業界特化のレポートにたどり着くことができます。

業界の全体像を把握するためだけではなく、バリューチェーン・サプライチェーン情報なども含まれていること、さらにデータが可視化されており、実用的なだけでなく、私たちの分析に多角的な視点を与えてくれます。

レポートはすでに構成が整っているので、そのまま自社の資料として活用できるレベルの完成度があり、定期レポート作成業務の効率化にも大いに貢献しています。チームとしてのアウトプットの質も向上し、分析結果の信頼性や説得力を高めることにつながりました。

また、スピーダのレポートは既存産業だけでなく、新興テクノロジー

ジーや新産業に関するトレンドレポートも豊富に揃っているので、成長市場における変化を先取りするための重要な情報源にもなっています。

ー カスタマイズリサーチサービス（CRS）について

※Customised Research Service（CRS）は、オンデマンドでリサーチ依頼ができるデスクトップ型の調査サービスです。スピーダのデータベース上に情報がなくても、要望に応じてアナリストが調査を行います。

最近では、「米中貿易摩擦が生産拠点の移転や先端技術産業の拡大に与える影響」といった、メガトレンドに関するリサーチを依頼しました。このような市場動向の要因や、地域市場への影響を正確に把握し、社内関係者や経営陣へ適切な指針を示すことは、私たちの業務にとって極めて重要です。しかし、社内の限られたリソースで膨大な情報を効率良く調査するには限界がありました。

情報の収集をチームのアナリストに任せるよりも、彼らにはその情報をもとにしたデータ分析や、追加的なインサイトの抽出に集中してもらうほうが、リソースの使い方としてより合理的です。スピーダのCRSを活用することで、調査にかかる時間を削減させることで、チームのリソースをより有効に活用することができました。

スピーダのカスタマイズリサーチは、スピード、効率、そして人的リソースの最適化という点でも、私たちにとって非常に有益なサービスです。

取材日：2024年10月15日

※インタビュー記事に記載の内容や、登場人物の所属・肩書は、インタビュー時点での情報です。

フルレポートは、スピーダASEANウェブサイトでご覧いただけます。





日系マレーシア法人・非日系市場開拓チームにおけるローカル企業の情報収集活用例

日系製造業企業マレーシア法人
営業開発部門

マレーシアに拠点を置く日系企業の営業開発チームでは、非日系市場の開拓にスピーダを活用しています。

現地営業先である中小企業の財務情報など、詳細な企業情報の取得には多大な時間やコスト、リソースがかかることが課題となっていました。

そうした中でスピーダを導入したことによって、業務がどのように効率化され、チームの営業活動にどのような変化をもたらされたのでしょうか？

営業チームが抱えていた課題

営業開発チームが最も苦労していたのは、中小企業の財務情報を効率的に収集することでした。マレーシアでは、SSM (Suruhanjaya Syarikat Malaysia) が提供するSSM e-infoを通じて企業の基本データを取得することは可能ですが、詳細な情報を得るためには多大な時間とコストが必要で、チームのリソースが圧迫されていました。

スピーダのプラットフォームは使いやすく、条件を指定して情報を絞り込むことができるため、必要なデータを迅速かつ正確に取得できるようになりました。また、ターゲットリストの精度が向上し、営業活動をより効果的に展開できる環境が整ったことで、情報収集の負担から解放され、提案内容の準備やリード分析といった、より戦略的な業務に集中することが可能になった点も大きな成果です。

スピーダを選んで良かった点

1. 精度の高いターゲットリストを作成できる

スピーダの企業データは独自の業界分類で整理されており、また、業界だけではなく、収益規模・所在地などの検索条件を指定し、簡単にターゲットリストを作成できるようになりました。また国を跨いだ検索条件も設定できるので、「マレーシア・タイ」×「バイオ燃料」といった条件でもリストが作成できます。これにより、複数の情報源から収集したデータを統一フォーマットに落とし込み一覧化するという手間が削減でき、作業時間が大幅に短縮されました。

2. ローカル中小企業の財務情報収集に役立つ

スピーダのASEAN版は、東南アジア諸国の上場・非上場企業の情報を網羅しています。特に中小企業の情報もカバーしているため、パートナー企業の選定や顧客企業の与信調査に役立っています。我々は中小企業がターゲットとなるケースが多いのですが、SSMで情報が見つからないとスピーダで探すこともありました。

3. 業界の動向をすばやくアップデートできる

特定の業界の概要を知りたい場合、スピーダの業界レポートを使ってクイックに情報を収集しています。スピーダのレポートは、鉄鋼業や自動車産業といった従来型産業から、新興産業に至るまで、業界動向や課題、将来性など抑えておくべき点が網羅されています。レポートは国別別書かれているので、ASEAN各国の市場概要を把握する際に非常に役立っています。国別マクロレポートも、その国の最新の動向を様々な角度から知る事が出来るので目を通しています。

4. 時間とコストが節約される

スピーダを導入する前は、SSMといったデータソースから企業データを個別に購入する必要がありました。ところが、詳細なデータまでは必要がない場合でも企業データを購入しなければいけないため、コストが高み、非効率でした。また収集した情報を精査し、共通フォーマットに落とし込む作業が発生していました。スピーダでは、必要なデータにいつでもアクセス可能、フォーマットも統一されているので、正確な情報を効率的に取得できるようになりました。

スピーダの使いやすいデザインや充実したデータ内容はチーム全体から高く評価され、現地スタッフと日本人スタッフを含む営業チーム全員が日常的に活用しています。スピーダは、営業プロセスを最適化するだけでなく、変化の激しい市場環境において、常に最新情報を更新しながらチームの成長を支えるための重要なツールとして、戦略的に活用されています。

取材日：2024年10月

※インタビュー記事に記載の内容や、登場人物の所属・肩書は、インタビュー時点での情報です。

フルレポートは、
スピーダASEANウェブサイトでご覧いただけます。



スピーダ

User's Voice

Nihon M&A Center
Nihon M&A Center Inc.

海外事業部ASEAN統括
（シンガポール担当）
尾島 悠介氏

M&Aのリーディングカンパニーにおける マーケット情報収集の活用例

日本M&Aセンター
海外事業部ASEAN統括 尾島悠介氏

M&A仲介で実績No.1のリーディングカンパニーである日本M&Aセンターは、中堅・中小企業の友好的なM&Aを支援する独立系仲介会社で、国内外で豊富な実績を持っています。東南アジアでは、シンガポール、インドネシア、ベトナム、マレーシア、タイに拠点を構え、現地の金融機関や会計事務所とのネットワークを活かして、クロスボーダーM&Aを積極的に推進しています。

海外事業部では、ASEANや欧米圏における買収先・売却先のターゲット選定に向けた企業リストの作成や、業界情報の収集にスピーダを導入。その具体的な活用法とは？

ー 日本M&Aセンターの海外事業について教えてください。

日本M&Aセンターの海外事業は、シンガポール、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナムの5カ国に拠点を構え、韓国では出資を通じて展開を進めています。シンガポール拠点は2016年設立、他の拠点はコロナ禍に開設し、2022年以降業績が順調に拡大しており、日系企業だけでなく、欧米やASEANの買手もターゲットとしています。シンガポールを拠点に他国の案件もカバーし、各国チームと連携しながら商談を進めています。

現在、東南アジア5拠点の統括責任者として全体を管理しております。インドネシアは年内の現地法人化を目指し、各拠点の人員も増加中です。現地採用と人材育成を強化し、さらなる成長を図っています。

ー スピーダをどのように普段利用されていますか？

尾島氏：スピーダはもともと日本で使っていたので、シンガポールでナショナルスタッフが増えた段階で、海外事業部でも契約させてもらいました。現在は、海外拠点の営業のコンサルタントは皆スピーダを使っていると思います。業界毎にどのようなプレーヤーがいるか調べたり、ターゲットを絞り込んだりするために日々使用しています。

「この国のこの業界のM&A情報を知りたい」というニーズにも、スピーダでフィルターをかけることができるので、ターゲット選定やリスト作成でスピーダの必要性を感じています。

我々の業務では売り手を探すことが多く、アプローチ先を選定のために、業界プレーヤー一覧の確認や企業の創業年数や役員プロフィール情報の収集にも、スピーダは重要なツールとなっています。

ー スピーダの良い点は？

尾島氏：マーケットの情報量が多いことです。プレーヤーだけではなく、マーケットの情報がどの業界についてもかなりカバーされていると思うので、業界情報を得るには便利です。

よく日本の企業から案件が進んだ際にその国の特定のマーケット情報を聞かれたりするのですが、なかなか東南アジアのマーケット情報って少ないんです。その中でもスピーダは情報量が多いと思います。

ー 東南アジアのM&A調査において重要だと感じることは？

国によってばらつきあると思いますが、財務情報がとても重要だと思います。通常、財務情報がないと、NDA（秘密保持契約）を締結した上で情報入手をするので、かなりの時間と労力が伴います。

詳細な情報、あるいはハイライトだけでもあると、アプローチするにあたり、話のきっかけにもなりますし、時間短縮と業務の効率化に繋がるので、重要視しています。

ー スピーダの導入を検討している方へのアドバイスはありますか？

スピーダの強みは、マーケット情報を海外から見れること、プレイヤーが把握できることです。M&A、ジョイントベンチャー、ビジネスマッチングや競合相手に関しても、スピーダを使うことは、プレイヤーを把握できるというメリットがあると思います。

M&Aのアドバイザーは沢山存在しますが、事業会社がインハウスのチームでM&Aを駆使して行くことも今後増えていくと思います。

そういう時に、スピーダのようなデータベースがあることで、自分たちで調べられるということは生産性が高いので、便利だと思います。

取材日：2025年1月27日

※インタビュー記事に記載の内容や、登場人物の所属・肩書は、インタビュー時点での情報です。

フルインタビューは、
スピーダASEANウェブサイトよりご覧いただけます。



企業データカバレッジ

アジア域内データカバレッジ詳細（企業データ）



アジア主要国の企業情報・企業財務情報を幅広くカバー。東南アジア主要6カ国330万社に及ぶ



シンガポール
63万社~

Financials for companies with
revenue >SGD 1m



マレーシア
72万社~

Financials for companies
with revenue >MYR 2m



タイ
60万社~

Financials for companies
with revenue >THB 25m



ベトナム
110万社~

Financials for companies
with revenue >USD1m



インドネシア
22万社~

key financials
available only for
listed firms and SOEs



フィリピン (4.6万社~)

Financials for top 5k companies



インド (23万社~)

Financials for companies
with revenue > USD 5m with 8k companies



日本 (62万社~)

Financials for companies
on Toyo Keizai and Kanpou



中国 (236万社~)

Financials for companies
with revenue >RMB 50m



香港 (6.2万社~)

Financials for companies with
Share Capital > HKD 10k with 3k companies



台湾(2万社~)

Financials for companies with
revenue >USD 10m



韓国(7.6万社~)

Financials for
companies with 27k

Other Countries



US/EU (Company Profile)
380万社~

Key financials for companies
with revenue > USD50m

Notes: Different thresholds (shown in blue) apply to each country which determines which private companies will have key financials available on SPEEDA. Financials will not be available for private exempt companies. The ultimate source of financial information is government filings. Numbers in brackets represent the total number of private companies, with or without financials

アジア域内データカバレッジ詳細（企業データ）



一定の基準を超えるサイズの企業については、現地のデータパートナーと連携して、対象企業の基礎情報および主要な財務情報を毎年更新。非上場企業の財務情報のカバレッジは他のプラットフォームを大きく上回ります。

国	定期アップデート対象企業の基準	更新頻度	更新時期※
シンガポール	過去2年で、年間売上高合計がSGD 1M以上	年1回	1月、4月、7月、10月
マレーシア	年間売上高合計がMYR 2M以上	年1回	2月、4月、7月、10月
タイ	年間売上高合計がTHB 25M以上 ・タイの全上場企業約900社の財務データを情報が取得 ・収録企業数としては、財務データが含まれない企業もカウントに入れますと、約60万社を収録しております。	年1回	2月、4月、6月、 8月、10月、12月
ベトナム	年間売上高合計がUSD 1M以上	年1回	1月、4月、7月、10月
インドネシア	2万社弱の主要企業の基本情報 [財務データは除く]	年1回	2月
フィリピン	売上順トップ5千社 *2年前の売上高から抽出	年1回	3月 ※企業概要と株主情報は8月ごろに更新
インド	年間売上高合計がUSD 5M以上 売上高順トップ8,000社	年1回	3月、9月

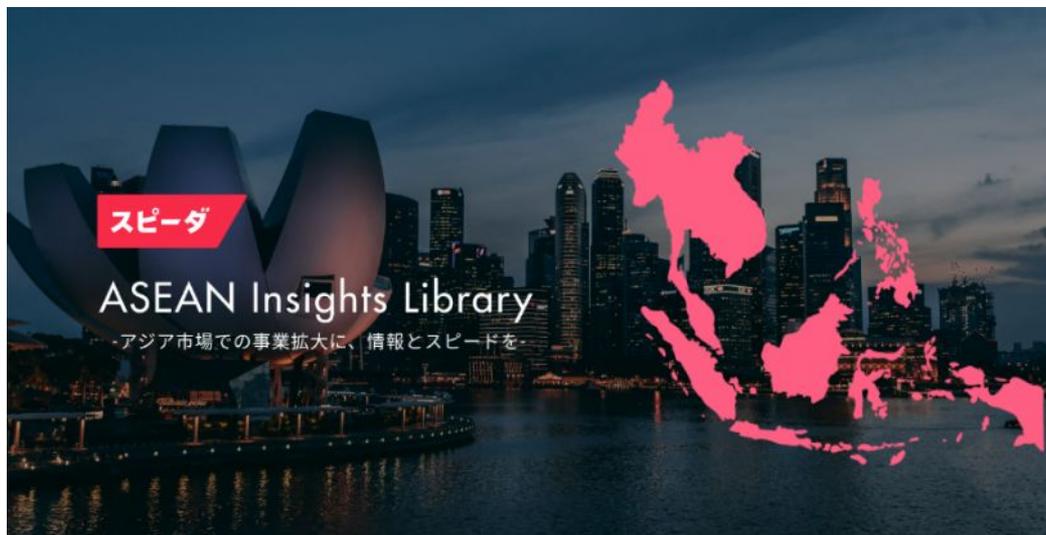
※対象各社が財務情報を政府機関への報告する時期により更新が前後いたします。できる限り早くデータをご案内できるようにパートナーからのデータ受領の時期を複数回設けています。

業界分析・注目トレンド分析

東南アジアの今を捉える ASEAN Insights シリーズ



東南アジア版スピーダの特徴として、東南アジア地域各国のマクロ環境分析、注目が集まっている事業機会を分析した独自コンテンツを定期的に配信しています。



<コンテンツ>

- ・ **エキスパートコメントリー**
グローバルの地政学的潮流やアジア各国の政治動向のアジア市場の事業環境に及ぼすインパクトをタイムリーにコメント
- ・ **ASEAN Insights / Emerging Perspectives**
今東南アジアで注目されているトピックについて、注目されている背景、事業機会の概要、日系企業を含めた各社の動向をとりまとめ
- ・ **ASEAN Country Report**
東南アジア主要国とインドの最新情勢を“PESTLE”のレンズで分析。3ヶ月毎のアップデートで最新動向を把握可能。各国の横比較も容易に。
- ・ **チャイナ・インサイト**
中国アナリストチームが作成したレポートのうち東南アジア市場に関連するテーマを抜粋して掲載

厳選された東南アジアの注目トピックについて レポート一本で最新動向を俯瞰可能

1. EVバッテリー製造の現在地：タイとインドネシアを中心に
 2. 東南アジアのB2B決済市場
 3. 東南アジアにおけるグリーン水素トランジション
 4. 東南アジアのバッテリーの再利用・リサイクル
 5. タイの自動車産業の混迷
 6. 東南アジアにおけるデータセンターの隆盛
 7. 持続可能な航空燃料（SAF）と東南アジア
 8. インドの製造業：政策と市場動向
 9. 東南アジアの役割の拡大する半導体産業
 10. 東南アジアにおけるグリーンケミストリー最前線
 11. 東南アジアのスタートアップ：社会課題のフロンティア
- ＜他の注目トピックについても定期刊行予定＞

東南アジア主要国とインドの最新情勢を “PESTLE”のレンズで把握可能

1. シンガポール編
2. マレーシア編
3. タイ編
4. インドネシア編
5. ベトナム編
6. インド編
7. ASEAN主要国 & インド ダイジェスト版 *地域を俯瞰するレポート
+ ASEAN M&Aアップデート *M&Aにフォーカスしたレポート

P (政治) : 政権動向、産業政策の影響
E (経済) : 景気・物価・金利など
S (社会) : 文化・人口動態を分析
T (技術) : 技術革新やデジタル化の進展
L (法律) : 法改正や規制の動向
E (環境) : 環境規制・環境リスク

〈それぞれ四半期ごとに最新版を刊行〉

中国市場・中国企業の動向が、東南アジア・インド市場に与える影響を考える

中国の経済動向、政府の産業政策、次世代自動車、脱炭素、その他最新テクノロジーなど、話題のトピックについて、スピーダの中国アナリストが執筆しています。



サンプル

- ・2024Q4 経済分析レポート
- ・2024Q4 貿易動向レポート
- ・2024Q4 M&A分析レポート
- ・全国両会特集: 安定成長と内部需要拡大への注目点



サンプル

- ・2024Q4 NEV市場分析
- ・PHEVの国外市場 (中国域外)への取り組み
- ・脱炭素化に向けた自動車大手の取り組み
- ・BYD特集: 成長の歩みとサプライチェーン分析



サンプル

- ・2025Q1 カーボンニュートラル市場分析レポート
- ・新たなGX機会/コスト削減機会分析レポート
- ・水素エネルギーの収益性・風力発電の国外戦略加速



サンプル

- ・2024テクノロジー市場分析
- ・2024半導体市場分析
- ・2024コマース市場分析
- ・M&A事例分析(テック市場)
- ・テック分野の代表企業分析
- ・M&A事例分析(半導体市場)

中国市場の欧米市場からの分断により、中国企業の東南アジア進出がさらに加速しています。米中対立や第二次トランプ政権の通商政策の動向次第では、中国政府・中国企業の東南アジアでの動向を注視する必要性が更に高まっていくと予想されます

スピーダ

経済情報リサーチ

サービス説明・トライアルをご希望の方はこちらにご連絡ください

連絡先：speeda.sea@uzabase.com

<お伝えいただきたい情報>

- お名前
- ご勤務先（法人名、部門）
- ご連絡先メールアドレス
- 居住国
- 収集したい情報や知りたいこと

当社主催のセミナーやサービス説明会でお会いできることを心待ちにしています！

セミナー情報はこちら！



最新情報はこちら

[当社ウェブサイト](#)にて、スピーダが提供するレポートの一部、日系企業アジア法人のマネジメントの皆さまへのインタビューレポート、セミナー案内などをご確認いただけます。



<p>TOSHIBA 橋本 和俊氏</p> <p>03.21.2025</p> <p>経営者に聞く「東芝アジア・パシフィック社 橋本和俊マネージング・ディレク...</p>	<p>東亜Nihon MuA Center 尾島 悠介氏</p> <p>02.15.2025</p> <p>経営者に聞く「日本M&Aセンター海外事業部ASEAN統括 尾島悠介氏」トップ...</p>	<p>ID&E 鶴澤 邦泰氏</p> <p>09.16.2024</p> <p>経営者に聞く「日本工営ビジネスパートナーズ株式会社 シンガポール事務所 ...</p>
<p>JALPAK AIRLINE 土橋 健太郎氏</p> <p>10.06.2023</p> <p>経営者に聞く「日本航空 シンガポール支店 土橋健太郎支店長」トップインタ...</p>	<p>JREAST 大見山 俊雄氏</p> <p>10.05.2023</p> <p>経営者に聞く「JR東日本 東南アジア事業開発 大見山俊雄マネージング ディレク...</p>	<p>EBARA 久保田 博通氏</p> <p>04.27.2023</p> <p>経営者に聞く「荏原製作所シンガポール 久保田博通社長」トップインタビュー</p>
<p>muRata 泉谷 寛氏</p> <p>03.21.2023</p> <p>経営者に聞く「村田製作所シンガポール 泉谷寛マネージング・ディレクター」ト...</p>	<p>NEC 栗原 伊知郎氏</p> <p>03.09.2023</p> <p>経営者に聞く「NECコーポレーション (タイランド) 栗原伊知郎社長」トッ...</p>	<p>TORAY 馬場 孝一郎氏</p> <p>04.06.2022</p> <p>経営者に聞く「東レインターナショナル シンガポール馬場孝一郎社長」トッ...</p>

<p>03.05.2025</p> <p>ASEANの自動車市場 - EV・自動運転・ローカリゼーションの最新動向</p>	<p>02.27.2025</p> <p>ASEAN二輪車市場：成長トレンドと電動化の未来</p>	<p>12.06.2024</p> <p>ASEANの医療用電子機器業界</p>
<p>12.04.2024</p> <p>ASEANの半導体テスト・後工程受託業界</p>	<p>11.08.2024</p> <p>ASEANのバイオ燃料業界</p>	<p>10.28.2024</p> <p>ASEANの合成樹脂業界</p>
<p>10.28.2024</p> <p>ASEANの火力・原子力発電エネルギー市場</p>	<p>10.11.2024</p> <p>ASEANで進む再生可能エネルギー市場</p>	